

東田利町報

No. 282 昭和53年9月1日発行 昭和42年7月21日第3種郵便物認可 毎月1・15日発行



No. 282

9/1

《軽井沢林道つけ替え復旧道路》

林道災害復旧工事。51年の融雪災害で軽井沢林道の桃台カ所が災害を受けました。その路線に復旧の方法がなく、写真の様に旧矢島道路（仁賀保矢島館合線）につけ替えて復旧しました。

延長 1,100m、幅員 4m、総事業費30,833千円。

本年度より舗装を実施します。

矢島境の茶屋長根に立つと鳥海山が一望に収まり、反対方向に白ヶ沢国有林が遠望されます。

秋の行楽には是非一度。

継承の自覚をもって 新しい文化の創造を

百八十一名が「はたち」の門出

今年で十三回を数えすっかり定着した夏の成人式は、お盆休みの帰省者でにぎわう八月十五日、町開発センターで行われました。

今年の成人式該当者は昭和三十三年四月二日から昭和三十三年四月一日の間に生れた人たち



これからは成人としての自覚と責任をもって

で、百八十一名中百二十八名が出席、会場のいたるところで「ひさしぶり」「元気だった」と、中学校卒業以来の再会を喜び、旧交を温め合ういつもの光景が見られました。

されたあと、代表した小松敏之君に「……一日一日を大切に、良い伝統は受継いで更に優れた創造を加えてあなたたちの時代をつくって下さい」と町長自ら書いた成人証書を、畠山勉君と畑山玲子さんには記念品がそれぞれ贈られました。

続いて町長から「成人式とは、歴史の継承の儀式であり、親がかりっぱに育った子に対して期待する儀式であると思う。新しい文化の創造は良い伝統を受け継ぐことなくしてはありえない。皆さんも「継承」の自覚をもつとともに、親に心配をかけ

臨時議会

湯出野遺跡保存整備費など

四千六百六十三万五千円を補正

東由利町議会第七回臨時会は八月七日に招集され、次の案件について審議、全案件を原案どおり可決しました。

◎ 町営土地改良事業の施行について

昭和五十三年度において小規模土地改良事業を次のとおり施行するものとする。

- ・事業名 ヨシヤチ地区圃場整備事業

ない人間に成長してもらいたい」と式辞があり、町議会議長町教育委員長、町選管委員長からお祝いのことが寄せられ、これに答えて、小松雄毅君が新成人者を代表して「……私達は成人としての自覚をもち、社会的にも一人の公民として遇されるようこれからぶつかる問題に自分の行動に責任をもって果たすよう努めたいと思います」とと力強く誓いのことを述べました。

このあと、本町小倉出身、三共株式会社社務所第三室長農学博士の遠藤章氏による「心臓病とのたたかい」と題する記念講演が行われ、式はとどこおりなく終わりました。

式終了後、赤飯とジュースでにぎやかに昼食交換をした成人者はまた、「はたち」となった記念の個人写真撮影に長い列をつくっていました。

る賦課基準並びに徴収の時期及び方法を、次のとおり定めるものとする。

・負担金の賦課基準

ヨシヤチ地区圃場整備事業
一 関係受益者の地積割

・負担金の徴収時期

一 事業着手の日から完成までの間において、町長が定めた時期

・徴収の方法

一 負担金は、金銭をもって普通徴収

◎ 昭和五十三年東由利町一般会計補正予算(第四号)

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ四千六百六十三万五千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ二千億九千二百四十五万一千円とした。

歳出補正の主な内容は、次のとおり。

- ・役場庁舎前舗装工事等整備費、四百四十二万六千円
- ・住吉交通安全母の会交通安全塔設置費補助金等交通安全対策費、四十一万三千円
- ・案内標示板(役場他)製作委託料、五十三万五千円
- ・若林放牧場内道路整備費、五十万八千円
- ・開発センター・朋楽荘構内整備関係費、九百一十五千円
- ・明通線取付道路工事関係費、百五十四万二千円
- ・石塚橋(小倉)架替工事関係費、七百四十八万七千円
- ・防火水槽設置費、消防機械置場工事費等、六百八十七万四千円

- ・横渡防火用水池補修補助金、十五万円
- ・中学校前庭整備費、二百六十万円
- ・湯出野遺跡整備工事費等、六百八十万円

◎ 昭和五十三年東由利町簡易水道事業特別会計補正予算(第二号)

歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ十三万二千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ二千五百十九万九千円とした。

歳出補正の内容は、次のとおり。



ちよつとした油断が事故につながる
(八月三十日・八日町で)

英霊よ安らかな眠りを しめやかに町追悼式



お父さん御苦勞様でした……と
追悼のことばを述べる遠藤ハチさん

日清戦役以降の町出身戦死病
没者三百十二柱の霊を慰める昭
和五十三年度の町戦没者追悼式
は、遺族や来賓など約百六十名
が参列し去る八月二十三日、町
開発センターでしめやかに行わ
れました。

遺子代表、市郡遺族連合会長か
らそれぞれ追悼のことばがのべ
られました。

この中で、太平洋戦争で父親
を失った遠藤ハチさん（新町）
が「……強ききびしく、ときに
はやさしい母があればこそ今日
の私達があり、お国の為に戦っ
てくれた父があればこそ幸せな
毎日を送ることが出来るのです。
お父さん御苦勞様でした」と
母と夫と三人の子どもたちと仏

壇に両手を合せ御祈りするしか
ありません……」と述べると、
式場内のあちこちではすすり泣
く婦人の姿や、目頭にそっとハ
ンカチをあてる光景が見られま
した。

このあと、おごそかな音楽が
流れる中で参列者全員が献花を
行ない、厳粛のうちに式を終え
ました。

交通安全の願いこめ

みどり保育園
交通安全母の会

横断幕掲げる

いがこめられています。

同会ではこのほか、園児の交
通街頭指導やドライバークに交通
安全標語のはい

害者のみでなく加害者も、さら
にはその家族をも不幸にします。
町民一人一人が交通ルールを守
るとともに、お互いに戒めあつ
て町内から交通事故を絶滅させ
るという強い決意のぞまされて
います。

有利で安全な出稼ぎを——と
町では本荘公共職業安定所と共
催で八月二十四・二十五日の二
日間、町開発センターを会場に「

玉掛け講習会」を開催し、九十
名（町内六十九名、町外二十一
名）が受講、試験の結果全員が
修了証を手に入れました。

玉掛けの仕事をするには「勞
働安全衛生法」による技能講習
の修了証が必要で、受講者は午
前九時から午後五時までぎっし
り詰まった講義・実技に真剣に
見聞き、取り組んでいました。

出稼ぎに限らず、建設工事現
場等に働く人にはあらゆる技術、
技能資格が要求されている今日、
その資格を持つていないとい
のでは待遇が大きく違います。

町では、出稼ぎ解消を最終目
標にしながらも、まだ当分続く
と思われる出稼ぎの援護対策事
業として、今後もこうした技能
講習会を開催する予定です。

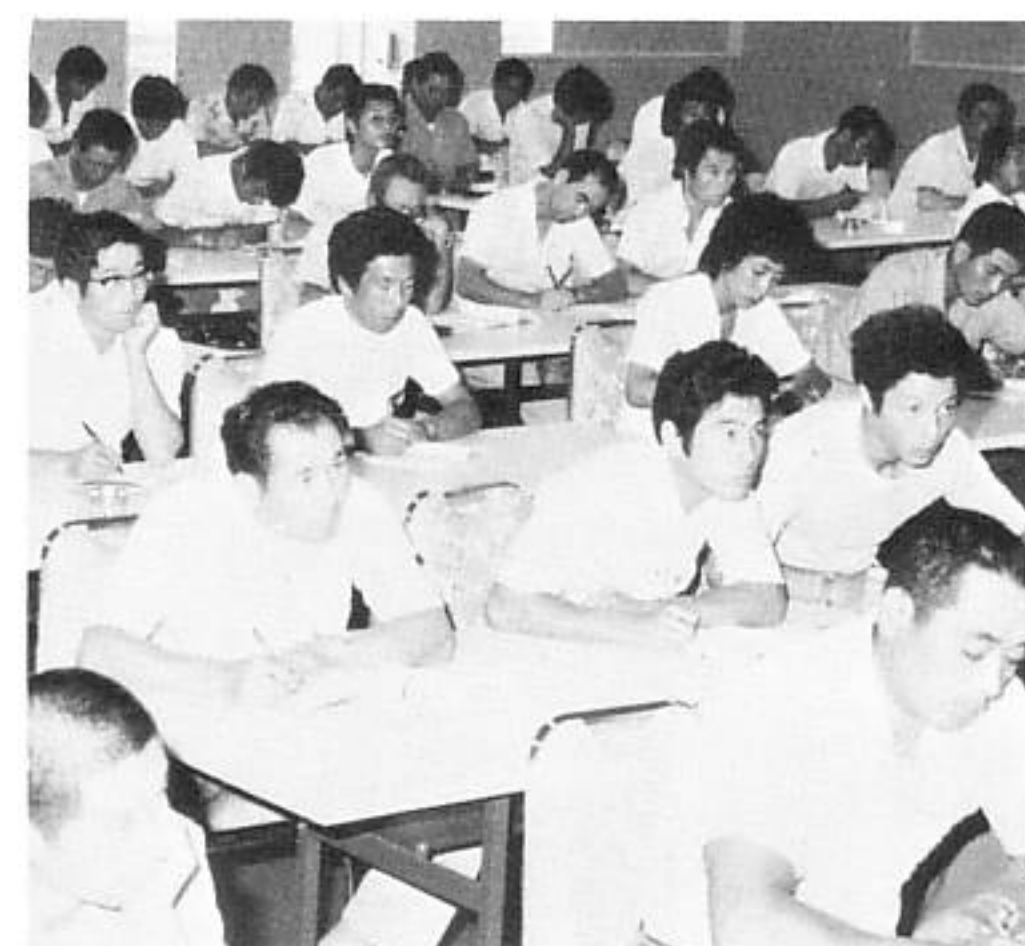
また、出稼ぎに行く場合には
必ず、出稼ぎ相談所や職業安定
所を通して就労するよう望んで
います。

みどり保育園交通安全母の会
（佐藤操会長）ではこのほど、
交通安全の役にと黄色の布地
に赤で「事故から守ろう、小
な命」と染めた横断幕を下小路、
田代地内の二箇所に取りつけま
した。

新聞やテレビでは毎日のよう
に悲惨な交通事故が報じられて
おり、この横断幕にはこうした
事故から子供を守り、事故のな
い明るい社会を築こうという願



下小路に掲げられた横断幕



講義をうける
受講者の目は真剣

実技試験……これで合否が決まる



日頃の訓練の成果を披露

総合で第四分団優勝

町消防大会

今年の町消防訓練大会は去る七月二十六日、台山グラウンドにおいて五分団二百二十五名の団員と二部落の私設消防団及び婦人消防隊員が参加して行われた。

この大会は、消防規律訓練並びに消防用機械器具の取扱、及び操作を習熟するとともに旺盛なる消防精神を練成し、規律厳正なる消防力を養うことを目的に毎年開催されているものである。

石渡副団長の指揮のもとに整



然と隊列を組んだ団員たちは、名譽統監である町長の観閲を受けたあと、佐藤団長から「住民の身体と財産を守るのが消防団の務めであり、厳しき規律のもと平素の訓練が大切である。物的高揚と合せ人的高揚も図らなければならない。尚一層の技術の錬磨に努めてほしい」と訓示を受けました。

続いて競技に入り、通常点検及び小隊訓練（制限時間五分で一定の隊列行進や分散、整列の出来具合を競うもの）九部、消

防操法（二五〇秒の制限時間内に点検から吸管、放水管装着、エンジン始動、放水開始等の一連の操作を行うもの）二十五班が炎天下の中、指揮者の号令を受け、キビキビした動作を見せ

日頃の訓練の成果を競い合いました。

結果、総合では第四分団が三年連続優勝を目指す第五分団を抑え優勝しました。

競技終了後、大吹川、黒沢の私設消防団、大琴の婦人消防隊が小型ポンプ操法、館合婦人消防隊が消火栓操法をそれぞれ披露、公設消防団に勝るとも劣らない操作に観衆や公設団員からは大きな拍手が贈られていました。

今年には自治体消防三十周年に当っており、団員ばかりでなく

市郡消防訓練大会

総合でも堂々三位

また、八月三日、本荘市、本

荘公園前広場で開催された秋田県消防協会本荘市由利郡消防訓練大会には、各部の第一位分団が出場し、郡内の各町村消防団員と技を競い合いました。

結果、各部に上位入賞を果たし、総合でも堂々三位に入賞するなど東田利の消防技術が年々レベルアップされていることを

町民一人一人が己の財産は己の手で守る、という消防精神を今一度考えてみるのもいいでしょう。

尚、競技開始に先立ち、高木商事（高橋七郎社長、横手市）から優勝旗の寄贈があり関係者から喜ばれました。

成績は次のとおりです。

〔総合の部〕

第一位 第四分団（工藤俊雄分団長）
第二位 第五分団（梅津栄一分団長）
第三位 第二分団（遠藤繁分団長）

〔通常点検及び小隊訓練の部〕

第一位 第四分団二部
第二位 第四分団一部
第三位 第五分団二部

〔小型ポンプ操法の部〕

第一位 第五分団二部一班
第二位 第一分団二部一班
第三位 第五分団二部二班

〔自動車ポンプ操法の部〕

第一位 第五分団一部一班
第二位 第三分団一班

物語りました。

町大会での成績は次のとおりです。

〔総合の部〕 第三位

〔訓練札式の部（通常点検及び小隊訓練）〕 第三位

〔ポンプ車操法の部〕 第三位

〔小型ポンプ操法の部〕 第五位

町長日記

○ 太陽の季節が過ぎ、朝夕の涼気が膚にこころ良い。それにしても暑い夏だった。市郡の消防訓練大会のあった八月三日は、この夏最高に暑い一日だった。本町から出場した代表分団は、総合、小隊訓練、ポンプ操法で各三位、小型ポンプ操法で第五位という優秀な成績だった。消防精神は、自己本意になり、全体を考えなくなった日本人の精神構造に対する歯止めでもある。郷土に身を挺して奉仕する精神と行動は、人間愛の根元に通ずるものである。権利義務、経済的判断が現代のモラルとなり、何事にも傍観者の多い昨今、消防人の心意気は日本海からの涼風の如く爽快であった。

○ 八月十五日成人式。成人式の意義は、子の成人を喜ぶ素朴な親の心の国民的総和の儀式であらうし、成人者には歴史の継承の自覚の機会であらう。二三提言することは、諸君の生れ育った時代は経済的には恵まれたが、精神的には掘り下げの少ない時代であった。建前論で世の中がなるとなつた時代である。併しニクソンショック、オイルショック、円高と世界は本音をブツケ合い出した今日は、

本音の間で判断し行動できる精神的なたくましさや豊富さが求められる今日になった、この自覚が必要と思う。本年の成人者は一八一名で出席者は一八名であった。数年前迄はアウトロウ的な態度が若干みえたが、本年は実に真摯な態度で感銘深かった。記念講演の講師の遠藤章氏は、三共製薬で心臓病の新薬を開発中の世界的な学究、法内出身。○ 佐藤政次先生が役場を訪ねて下さる。壮者を凌ぐ御元氣。盆中で庁舎内も閑散。日中条約論、中国、ソ連の態勢の相違、中国の世界政略、国政と地方行政との関連。先生御専門の教育論に入り、一町の一体的な教育方針と実践。一個の生徒の勉学指導方法。宗教論に入って仏教の、如来、菩薩、明王の説明。盛夏の一刻、まさに耳洗の清話であった。明年の来町を約される。

○ 戦没者慰霊祭

わが生の、あらむ限りの幻や送りし頃の、前を征きし子特攻隊に、乗らむとかの日積乱雲は、かなしかりけり

道を急な整備を

107号線

住民生活・福祉向上のため

土本事務所長ら五十人余りが出席したほか、来賓として根本、野呂田両国會議員、木内県會議員、



本荘、横手、東田、雄物川、平鹿の二市三町で組織する国道一〇七号線整備促進期成同盟会の総会が八月二十六日、町開発センターで開催されました。

総会では本町の町長が議長をつとめ、沿線の住民生活及び福祉向上と産業発展のため、同線の早急な整備を関係各方面にはたらきかけてゆくなどを内容とした事業計画を決めました。

この他、各市町の事情について協議が行われ、県側からは、全力を尽くして整備促進に對する旨の説明がありました。

また、今年は役員改選が行われ、会長に佐藤憲一本荘市長、副会長に千田謙蔵横手市長と本町の小松町長、監事に佐藤幸三平鹿町長と佐々木恭三雄物川町長が選

出されました。国道一〇七号線は本荘・由利横手・平鹿をつなぐ大動脈であり、同線の改良整備は本町の発展の上でも重要な意味を持つことは言うまでもなく、一日も早い改良整備が望まれています。

地域住民の健康増進に

旧下中跡地に運動場完成

旧下中中学校跡地に「横渡運動場」がこのほど完成、去る八月十九日、町、議会、教育委員会、工事施行業者、地元住民代表者ら関係者約六十名が出席し、竣工式並びに記念野球大会が行われました。

蔵地区は、昭和五十年に県モデルコミュニティ地区に指定されており、同運動場も、県の補助事業「モデルコミュニティ施設整備事業」として昨年七月

に工事着工、二カ年継続事業で実施されてきたものです。施設は、総面積一万七千平方メートル、グラウンド面積一万一千七百平方メートル、バックネット二十メートル、器具室及び便所一棟三二・四平方メートルとなっています。

また、総事業費は二千二十一万円となっていますが、補助金や起債等でまかなわれ、地元の負担はありません。この運動場は野球のほか、陸上競技、バレーボールも出来る

後、地域住民の健康増進にはもちろん、コミュニティづくりにも大いに役立つものと期待されています。

同地区ではこのほか蔵で、十月末完成を目途に「集落センター」建築工事が急ピッチで行われており、モデルコミュニティ地区としてその成果を上げるべく基盤の整備も着実に進められています。

尚記念野球大会には、蔵ローズ蔵ジャイアンツ・ワックマン・法内フラワーズの四チームが参加、熱戦を展開した結果、蔵ローズが優勝しました。

また、野球大会開催に当り、町長から「記念カップ」が贈られ大会関係者から喜ばれました。

国民年金

特例納付制度の活用を

「あのとき、国民年金の保険料を忘れないでおさめておけばよかった。そうしたら、みんなと同じように年金をうけられたのに……」

今、あなたは、こう思っていますか。

このような方は、役場国民年金係へご相談下さい。

国民年金に当然加入しな

特例納付制度の活用を

「あんなに忘れなかった方で、保険料をおさめ忘れていたため、時効になった期間のある方、又、当初から加入していなかった方については、特例的に、過去の保険料をおさめることができることになりました。」

この特例的に保険料をおさることができるのは、本年七月

一日から昭和五十五年六月末日までの二年間に限られています。又、保険料の額は、一カ月当たり四、〇〇〇円とされています。この保険料の特例納付の制度を活用して「年金受給者」の仲間入りをしてください。



神事も無事すみ、お礼のことばを述べる
グラウンド拡張推進委員長の阿部さん



始球式…この一球から
健康づくりが始まる

広がる友情の輪

思い出多い少年自然教室

去る七月二十七日から二十九日の三日間、自主参加で町内各小学校の六年生を対象にした「少年自然教室」が、この森をベースキャンプに八塩一帯で行われました。

これは、自然に親しみ、規律ある共同生活を通して子どもたちに、創造力と豊かな情操を身につけさせようという公

民館が主催したもので、昨年につづいて二回目です。

教室には六校から五十八名（男三十八名、女二十名）が参加したほか教育長、公民館長以下関係職員、阿部（清）（住小）阿部（美）（同）、増村（玉小）、渡辺（老小）、村上（同）小西（蔵小）、佐藤（宿小）、相原（同）の各先生も参加し世

話にあたりました。

「フウフウ言いながら、途中おんぶされながらも初めて登った八塩山。九十歳になる大吹川の畠山子之吉翁の「むかしかり」。ヤマメのふ化場見学。夜の八塩に赤々と燃え立つキャンプファイヤー等々――二泊三日という短期間での様々な体験から生まれた友情と思い出は、子どもたちの小さな胸の奥にいつまでも燃え続けることでしょう。」



畠山翁の「むかしかり」に拍手でお礼



初めての八塩登山、頂上目ざして元気一杯



この火がさらに強く
子どもたちを結びつける

八塩で夏を楽しむ

初めてたく飯こう飯―さてその出来具合は



優勝旗は初陣・野球狂の手に

八名の方に感謝状贈呈

第二十回東田利町社会人野球大会は、史上最高の二十五チームが参加し、八月十六日から四日間にわたって町民グラウンド、台山グラウンドで行われ、激しい熱戦が繰り広げられました。

また、開会式の席上、人間で言えば成人を迎えたこの大会を記念して、主催の町野球協会（小松民三郎会長）から、町社会人野球の発展に貢献のあった小松忠亮氏ほか十四名の方々に感謝状、表彰状及び記念品がそれぞれ贈られました。

大会は、当初三日間の日程で行われる予定でしたが、初日の第一試合途中から雨に見舞われ、十七日も止まず、結局二十日に準決勝、決勝が行われたものです。

決勝は、昨年の覇者玉米青年会チームと、今年の春の大会以後チームを結成したばかりで並み居る古豪を次々と下してきた初出場の野球狂チームの間で行われました。



しっかりと優勝旗を手にする畠山（孝）選手

試合は、初回に相手のエラーに乗じて先制点をあげた野球狂がその後も得点を重ね、最終回食いつける玉米青年会を抑え、結局五対〇で真紅の優勝旗を手に入れました。

表彰者および個人賞・大会戦績一覧表は次のとおりです。

〔感謝状贈呈者〕（敬称略）

・故佐藤菊一（新町） ・小松忠亮（館西） ・太田勇一（新町） ・高橋勇孝（新町） ・小松久隆（宇戸坂） ・中津川俊雄（本莊市） ・笹本信也（蔵） ・清野利夫（大内町）

〔表彰状贈呈者〕連続二十回出場（敬称略）

・小松進（家の下） ・佐藤徳一郎（大吹川） ・佐藤十内（下小屋） ・菊地英夫（館西） ・佐藤寅雄（下通） ・佐藤愈（八日町） ・工藤保春（蔵新田）

◎最高殊勲選手

小野善久（野球狂）

◎最優秀投手

畠山孝夫（野球狂）

◎首位打者

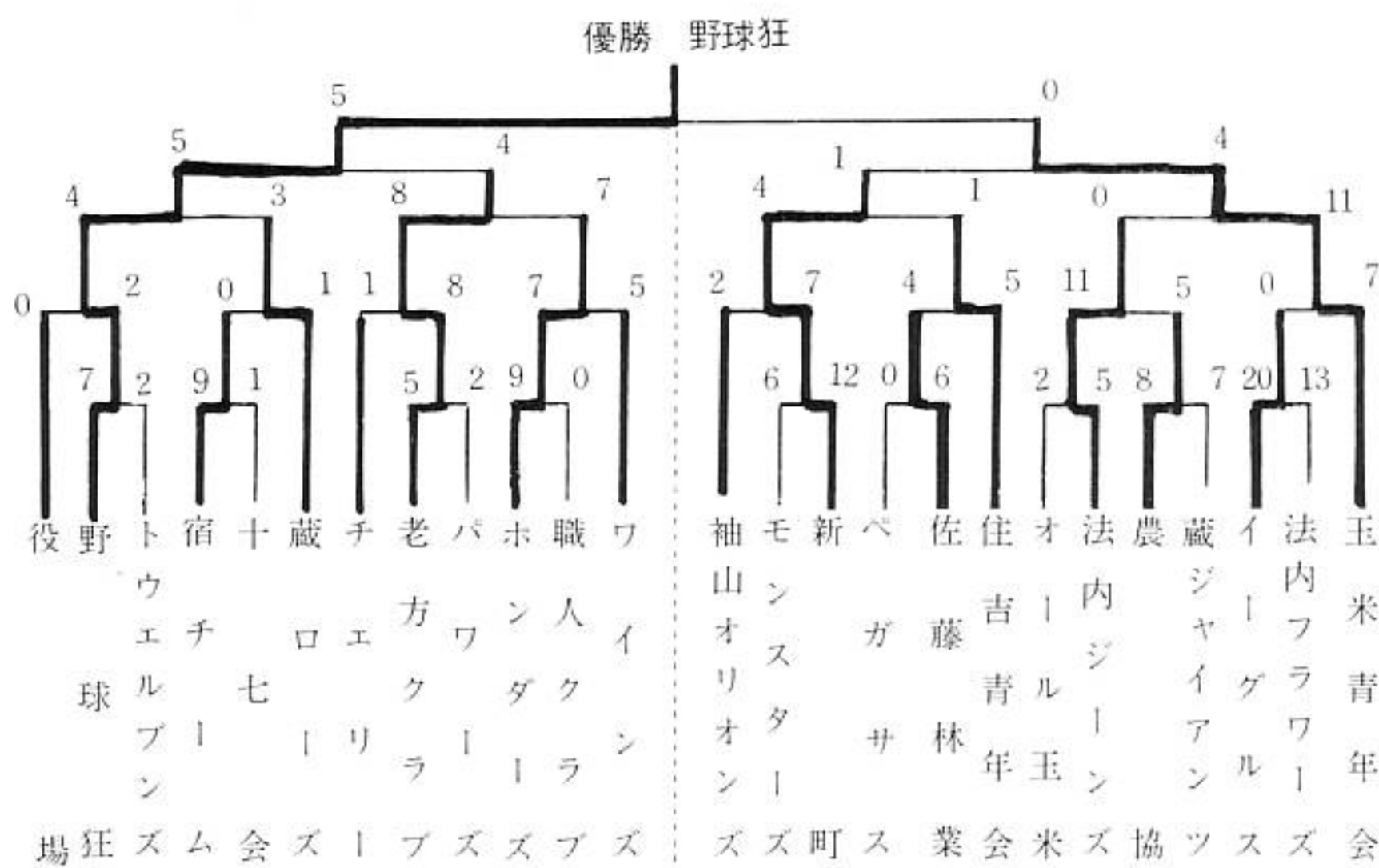
伊東国広（野球狂）

◎敢闘選手

畑山一広（玉米青）

（台山グラウンド）

（町民グラウンド）



“これくらいそれが心の赤信号”

住宅金融公庫（便り）

マイホーム建設資金（五・〇五）の融資

住宅金融公庫では、マイホームをつくられる皆様へ長期で低利の建設資金を融資しています。

募集は年三回行う予定です。（募集期間が決定しますと新聞・テレビ・ラジオ等で報道されます。）その主な融資条件を紹介いたしますのでご利用下さい。

一、申し込みできる方
自分が住むための住宅を新築される方で、土地の準備ができています。

二、融資を受けられる住宅
住宅部分が三〇平方メートル以上二二〇平方メートル以下の住宅
注 六〇歳以上の老人、心身障害者、六人以上の多数家族が同居される場合は、一五〇平方メートルをこえない五〇平方メートル以下の住宅を建てるができます。

三、融資の限度額
住宅を建設される地域、住宅の構造、面積によって融資額が異なりますが
・木造住宅の場合
・県庁所在地の市・泉市

八戸市（最高）三八〇万円。
・その他の地域（最高）二二六〇万円

注 六五歳以上の老人の同居、身体障害者同居の場合は、四〇万円の割増し融資を行います。

四、返済期間
・木造・不燃構造—二十五年以内
・簡易耐火構造—三十年以内

注 耐火構造—三十五年以上
注 上記の期間内で十年以上五年単位で返済期間を選べることができます。

五、利率—年五・〇五
六、返済方法
元金と利息を合計した額が、毎月一定となるように返済していただきます。

注 一、希望により、当初一年間は利息のみ払って元金は据置くこともできます。

2、返済期間が二十五年の場合、一〇〇万円につき毎月元金と利息の合計で五、八七五円となります。

◎ 詳細については、住宅金融公庫仙台支所（電話〇二二二—二七一九三一一）へ。

社会福祉を高めるつどい

町民の幸せを求めて活動

遠藤さんら六人が体験発表

八月二十六日、町開発センターで「東田利町の社会福祉を高めるつどい」が開催されました。このつどいは、社会福祉に関する町民の理解と関心を高め、

町民一人ひとりが互いに助け合う総ポランテアを目ざす契機とし、町民の幸せを求めて活動して行こうと、町社会福祉協議会が提唱、主催したもので、

本町では初の試みです。

つどいには、民生委員や協議会議員を始め母子福祉会、身障者協会、手をつなぐ親の会など関係団体及び婦人会、青年会、部落会などから二百五十人余りが参加しました。

開会式のあと小、中学校から各一名、老人クラブなど関係団体から四名、計六名がそれぞれの体験に基づく意見の発表を行いました。

まず小学校代表の畑山作栄君（宿小六年・土場沢）は「健康なからだをつくり仲間をつく

ることが幸せの第一歩でないか」と発表、続いて東中三年の小松貢治君（館合新田）は「家庭の経済事情で進学をあきらめなければならぬ人も多い。町独自で奨学金制度を設けるなど貧しくとも家庭の中に笑顔の絶えない町にしてほしい」と訴え、老人クラブ代表の遠藤吉三郎さん（新処）は「与えらるる福祉のみに依存することなく老人といえどもお互い協力し合いながらできるだけの努力をし福祉の輪を広げてゆきたい」と老いてなお盛んな意気を見せ、それぞれ大きな拍手を寄せられていました。

また、身障者協会の長谷山喜市郎さん（下通）は、同協会に一層の理解を得たいとして事業の主な内容を紹介、手をつなぐ親の会の畑山清一さん（下吹）も、手をつなぐ親の会を紹介しながら最重度の障害児を持つ親

自らの「福祉の心」を呼びおこして

の立場から「福祉に力点が置かれていく世であるからこそ、親子ともども苦痛に耐え生き続けられた。一層この増進につとめたい」と述べ、母子福祉会の大日向悦子さん（宮ノ前）は「夫を失った後の戸惑いと落胆は大きかったが、子供に支えられ、またこの福祉会に支えられ耐え続け今日に至っている。年一回の親子の集いには是非みんなが参加してほしい。」と結び、発表を終わりました。

午後、秋田県生涯教育講師の藤原久八先生から「人間の町・人間の歌」と題して「人間の幸せとは、生きた人生ドラマの中に生きることだ。住民みな兄弟という考え方で生きるこ

とがボランティアの原点であり、社会福祉を高める根源になる」と特別講演がなされ、参加者全員が大きな感動をうけていました。

最後に、町青少年団体連絡協議会を代表して、町農近ゼミ副会長の阿部陽悦君（岩館）が「自らの「福祉の心」を呼びおこして社会福祉活動に積極的に参加し、町民の幸せを求めて強力にボランティア活動を推進する」と宣言、全員がこの宣言を採択して、本町初の福祉を高めるつどいの幕を閉じました。



“母子家庭になって”と題して発表する大日向さん

福祉の窓

◎制度の目的

この制度は、国、県、町と事業主が費用を持ちあい、児童手当を支給することによって、家庭生活の安定と次代をにう児童の健全育成をはかるものです。受給者の方は、児童手当がこのようなことを目的として支給されるものであることを御理解いただき、支給を受けた児童手当をその趣旨にそって用いるようにしてください。

◎受給資格

①十八歳未満の児童を三人以上養育しており、そのうちの一人以上が義務教育終了前の児童

児童手当制度

十月から支給額が改正

であること。

②その人の前年の収入が一定の額に満たないこと。（たとえば、扶養親族等が五人の場合、所得限度額が三百五十二万六千円以下であること）

◎支給額

（税法に定める町民税の所得割の額がない場合は月額六千円です。）
◎手当の認定と支給
児童手当の受給資格がある人の請求に基づいて町長が認定し支給します。（なお、公務員の方についての認定と支給は、そ

児童手当の額は、三人以上の児童のうち出生順に数えて三人目以降である義務教育終了前の児童一人につき月額五千元です

の勤め先で行います。）

支給は、請求に基づいてその翌月から行われるのが原則であり、請求がない場合は、いつまでも受給できないという事態の生ずることもありうるので出生届と同時に必ずその旨係に申し出されるようにしてください。

◎手当の支給月

毎年六月、十月、二月の三回に分けて、それぞれのその月の前月までの四カ月分をまとめて支給します。



町の概要	
人口総数	6,460人
うち男	3,171人
うち女	3,289人
世帯数	1,473戸
面積	148.51km ² (53.8.1)

町民のふるほ

青い目のお嫁さん大ハッスル

夏の厳しい暑さの中、大台地区大運動会が八月十九日、宿小
学校大台分校グラウンドで行われ
ました。

この大会は、大台、大谷地地
区のほか隣り合う本荘市三ツ方
森部落も参加して昭和三十七年



アベック競争—1位でゴールする孝さんとマリアさん

五もあり、賞品も盛りだくさん。
特に今年地区の人たちを喜ば
せたのは、大台出身、現在アメ
リカコロラド州デンバーに住む
阿部孝さん（28歳、清喜さん二
男）と、シカゴ生れの青い目を
したお嫁さんのマリアさん（19歳）
が参加、部落の人達と一諸に幾
つもの種目に出場、大いに大会
を盛り上げたことです。

マリアさんは昨年十月の結婚
式について大台へは二度目。

日本風というところ、阿部マリア

で、聖母マリアと同音、結婚
式には牧師さんも間違えたとい
うエピソードもあるといひます。

また、独学で覚えたという日
本語のうまさには周囲の人もび
つくりさせられていました。

大台にきての感想はと問うと
「……こういうふうに皆んなが
一諸に運動するのは見たことが
なかったが、非常に親近感が持
てた。健康的にも大事と思うし、
こうして楽しむことも大切と思

う。今後も続けてもらいたい。
賞品もたくさんもらったし、
しばらく買い物に行かなくても
いいのでは……」と、ユーモア
もまじえて答えてくれました。
秋の取り入れを前に、ワンダ
フルなマリアさんとともに地区
の子どもから大人まで約七十名
の人たちは暑さにも負けず、楽
しい素敵な夏の一日を過しまし
た。

善意

老方小にゼッケン50枚

上通の遠藤正さんはこの
ほど老方小学校にゼッケン
五十枚を贈り、喜ばれてい
ます。

社福だより

玉米地区新成人者一同より、
町民の福祉向上のために役立て
て下さいと五千円が届けられま

した。
どうもありがとうございます

歌会始のお題及び 詠進歌の詠進要領

昭和五十四年歌会始のお題は
「丘」と定められました。

（お題は「丘」ですが、歌に
は「岡」の文字を用いても差
し支えありません。）

◎詠進歌は、自作の歌で一人一
首とし、未発表のものに限りま
す。

◎用紙は、半紙とし（習字用の
半紙（白紙）がよい）、毛筆で
自書して下さい。

（病氣等で自書できない場合
は他人が代筆しても差し支え
ないが、すべてその理由を書
いた別の紙を添えて下さい）

◎書式は、半紙二つ折りにし、
開いて右半面にお題と歌、左半
面に郵便番号、住所、氏名（本

電話異動のお知らせ

東由利電報電話局

加入者氏名	電話番号	設置場所	異動種類
畑山 繁 富	3903	土場沢	転出
佐藤 作 治	2758	大吹川	〃
畑山 繁三郎	3639	下吹	〃
田口 靖 一	3139	岩館	〃
菊地 金治郎	2375	八日町	〃
佐藤 ミナ子	3514	大琴	新設
総合開発センター	2861	台山	〃（赤）
長谷山 治 弥	2672	高戸屋	〃
榊 忠 行	3033	岩館	〃
長谷山 丸	3817	石高	〃
小松 勘一郎	3801	下通	〃
大日向 健 男	3129	大琴	〃
玉米小学校	2812	館西	〃（キヤビ）
小松 正 夫	2813	蔵	〃（〃）
祝 沢 分校	2841	祝 沢	廃止（赤）
小 野 新 一	2260	新 町	改 番
伊 東 喜十郎	2056	島	〃
佐 藤 徳太郎	3512	板 戸	〃（ピンク）



誕生

おめでどう

7月21〜8月20日



名、ふりがなつき）、生年月日
及び職業を書いて下さい。
◎締め切り 53年10月11日（当
日消印有効）
◎郵便のあて先
〒100東京都千代田区千代田一
番一 宮内庁とし、封筒に
「詠進歌」と書き添えて下さい



結婚

おしあわせに

佐藤 厚 子 上通
佐藤 寛 子 上通
金森 敦子 本荘市

・お悔み申し上げます
柏原恭次郎 新町 83歳
小松ウメヨ 畑村 67歳
小松マサミ 湯出野 62歳
高橋 潔 五海保 48歳